

地域での信頼確立に向けた取り組み [種別横断]

廃寺復興によるソーシャルインクルージョンの実践と町づくり

廃寺の復興に関わった事をきっかけに、ソーシャルインクルージョンを踏まえた町づくりをコンセプトとして、地域住民を対象とした『西圓寺温泉の無料開放』や、『ワークシェア雇用』を行い、地域コミュニティセンターとしての役割を担っている。

石川県

社会福祉法人

佛子園

〒923-0033 石川県小松市野田町68

TEL: 0761-48-7773 FAX: 0761-21-2120

○法人設立年／昭和35年

○法人実施事業

- ①経営施設数合計 : 12施設
②経営施設・事業【種別毎の数】 :
知的障害児施設…1、障害者支援施設…2、多機能施設…6、
グループホーム・ケアホーム…14棟

○法人の理念・経営方針

PLVS VLTRA (プルスウルトラ)
～さらに彼方へ～

わたしたちは一人ひとりが
暖かいまなざしと和やかな笑顔
やさしいことば
感謝と思いやりの心
譲りあう気持ちを忘れず
心に安らぎと生きるための
ゆとりを提供できるよう努めます

○取り組みの法人での位置づけ等

ソーシャルインクルージョンのモデル実践として
位置づけ、取り組んでいる

○取り組みを実施している施設の概要

【施設名】

三草二本西圓寺 (さんそうにもくさいえんじ)

【施設種別及び利用定員】

高齢者デイサービス10名、就労継続支援
B型20名、生活介護6名

○活動内容

- ◇活動開始年：平成19年11月
- ◇活動の対象者：
地域住民、高齢者、障害者
- ◇活動の頻度・時間：
毎日

活動実施の背景、実施にいたった理由

平成17年に廃寺と化した小松市野田町の中心地にある古刹「西圓寺」を、町内会の強い要望で譲り受け、荒れ放題の寺を復興することになった。これを機に、寺の復興を通じた福祉的町おこしとソーシャルインクルージョンを踏まえた町づくりをコンセプトとしたプロジェクトが始まった。

当法人はこれまで地域福祉を率先して展開してきたが、障害者にのみフォーカスするやり方では、どれだけ地域の中で質の高い福祉サービスを実践しても所詮「障害者福祉」の域をでるものではないとの教訓を得た。彼らが本当の意味で「地域で生活する」ためには、障害者だけではなく、高齢者も子どもも老若男女すべての人がそこに絡んでこなければならぬ。町全体を総合的に変えていけば、障害者だけではなくすべての住民にもやさしい町になっていくのではないかと。これまで単発の普及活動は様々してきたが、このプロジェクトは住民と一体となって恒常的に関わる法人初の試みである。

実施内容

地域のコミュニティセンターとして住民の各層を対象に以下の様な取り組みを行っている。

①住民対象に

- ・憩いの場、住民同士の交流の場、町内行事会場の提供
- ・「西圓寺温泉」の無料開放
- ・「西圓寺カフェ」の運営 (夜は居酒屋に早変わり)
- ・本堂での定期ライブ
- ・「西圓寺市 (さいえんじいち)」の開催と町の生産品の販路の提供

②高齢者対象に

- ・ワークシェア雇用
- ・娯楽の場として

③子ども対象に

- ・放課後の遊び場の提供

・駄菓子販売コーナー

④障害者対象に

- ・就労の場の提供（西圓寺の運営に従事）
- ・余暇を過ごす場として

活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

（1）なぜ寺の復興なのか

本来お寺は、折節につけ日常的に町の人達が自然と集まり、様々なことが行われる住民の拠り所であった。しかし、最近ではこうした人と人との繋がりが希薄になり、地域の活動も少なくなってきた。全国的にも廃寺化が問題になっているが、それは地域力の低下と密接に繋がっている。町の中心に存在する西圓寺を再興することは、住民活動を再び活性化することに繋がっている。

（2）住民の関係性の回復

オープンして1年半、希薄になりつつあった人間関係が急速に回復されている。疎遠だった人達の間コミュニケーションが生まれ、そこには障害者や認知症の高齢者といった隔たりが感じられない。まさに住民の拠り所になりつつある。

（3）寺の存続に対する感謝の念

住民にとっては、西圓寺は近年使わなくなったとはいえ、やはり町の中心にあるものであった。建物を潰さずに生かしたことに感謝の意をとなえ、御本尊の設置されていた台座に向かって手を合わせ住民も多い。

今後の課題及び展開

（1）住民による主体的な町づくりへ

野田町の主役は、われわれではなく住民であることを忘れてはならない。寺の再興とともに住民自らが主体的に自らの町を変えていくことが今後の目標である。

（2）ソーシャルインクルージョンモデルの一般化

西圓寺の様な、お寺を中心とした特殊な条件下でのソーシャルインクルージョンは他ではなかなか真似できない。次は、保育を核に高齢、障害分野を融合させたソーシャルインクルージョンモデルをすすめていきたい。

主な経費や財源及び人員等

- ・取り組みに係わった職員数 9名
（職種等：支援員、看護師、事務員）

